

事業の背景・目的

北潟湖は、開田橋にある水門の調節により塩分環境の変化を調整することができる湖である。このため、湖の連続的な調査を実施して、塩分環境の変化による、魚類相の変化を調査していく必要がある。北潟湖周辺のため池には、絶滅危惧種の水生昆虫が生息しており、それらの生息に影響を及ぼす外来生物を駆除する必要がある。また、地域住民にとっても北潟湖に関わる機会が減っており、関心が薄れている。このため、様々な催し等を開催して北潟湖の環境について、普及・啓発を行っていく必要がある。本会はより多様な主体を集めた議論を展開していくため、自然再生推進法に基づく北潟湖自然再生協議会を設立し、北潟湖自然再生全体構想を策定し、より活発に活動を行いたい。

事業の内容

事業① 動植物生育状況調査

- ・塩分濃度測定
- ・塩分変化による魚類の変化を調査

事業② 外来生物（外来種）対策

- ・北潟湖周辺のため池の水生昆虫の調査
- ・ウシガエル等外来生物の駆除

事業③ 市民参加型モニタリング調査・保全活動

- ・自然観察会を実施
- ・北潟湖自然再生協議会設立準備会を開催（全3回）
- ・プラゴミ回収イベントを実施
- ・講師を招き講演会を実施

事業④ 水田魚道モニタリング

- ・人口産卵床 3 基を追加作成
- ・フナ、コイに産卵させ育成
- ・育成状況のモニタリング

事業⑤ 北潟湖フォーラム

- ・北潟湖の恵み試食会開催
- ・北潟湖に関する講演（3 組）
- ・自然再生協議会設立総会の開催

事業⑥ 生息環境整備事業

- ・赤尾湿地の草刈

得られた成果

動植物生育状況調査を行い、塩分濃度と関連する魚類の生息状況の関連性を調査、生息環境整備事業では草刈で希少種を保全。また、その場所を自然観察会の場所とすることで小学生への環境に対する意識向上を図った。外来生物対策として水生昆虫の調査を実施。外来生物のウシガエルやアメリカザリガニ等の駆除を行い、貴重な水生昆虫の保全を行った。水田魚道モニタリングでフナ・コイを育成。昨年度は多くの魚卵を捕食されてしまったが、産卵床を適切に管理することにより、育成に成功した。全3回の北潟湖自然再生協議会設立準備会を開催し、平成30年11月24日に北潟湖自然再生協議会を設立。本年度は設立総会を含め3度の自然再生協議会を開催し、北潟湖自然再生全体構想の策定及び刊行を行った。次年度より部会に分かれた活動を行いながら、自然再生実施計画の策定を目指す。また、これまでの活動の中には、水質の調査や絶滅危惧種の保全・再生など、引き続き活動が必要なものがあるため、これからも継続していく必要がある。